



ミンガラバー

認定 NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL: 086-224-0102
FAX: 086-221-2554
URL: http://www.mjcp.or.jp

今年度予算も事業縮小

総会 3年連続で中止

協会の今年度(2022年7月~23年6月)の事業計画と予算が決まった。コロナ禍とミャンマーの政情混乱で、協会の活動は大きな影響を受け、今年度もまた事業を大幅に縮小せざるを得なかった。

例年なら総会で会員の皆さんに予算などを承認してもらい、そのあとの懇親会で会員同士、交流してきた。それがコロナで昨年、昨年に3年連続で中止に。代わりに理事、賛助会員など全会員に往復はがきで賛否を聞き、承認をえた。今年度予算は一般会計1853万円、特別会計5399万円の合計7252万円。

援する活動は協会の中心的な事業だが、ミャンマーでは実権を握った国軍に対抗する不服従運動に多くの医療関係者が参加しており、これらの人が日本での研修などを希望しても、国軍が出国を認めるか難しい状況という。そのため予算はとりあえず

田中奨学金10人予定

事業費は一般会計が325万円。ミャンマーから医師、歯科医師や検査技師らを招いて研究や研修を支援する活動は協会の中心的な事業だが、ミャンマーでは実権を握った国軍に対抗する不服従運動に多くの医療関係者が参加しており、これらの人が日本での研修などを希望しても、国軍が出国を認めるか難しい状況という。そのため予算はとりあえず

一方、特別会計の事業費は1000万円で、故田中茂人理事からの寄付金で設立した「田中医療奨学金」の支給だ。本国からの送金が途絶したりして生活が困窮しているミャンマーからの留学生ら10人が対象。



来日直後、実習生は日本での生活の基礎的なことの講義を受けた
|| 岡山市東区

西山理事 橋渡し ミャンマーから 介護実習生80人

コロナ禍に加えてクーデター後の政治混乱が影響して、ミャンマーとの人的交流は今も停滞気味だ。そんな中、協会理事の西山さん(橋渡し)となって、介護の技能実習生約80人が来日し、岡山、広島両県内で働き始めた。

西山さんはこれまでミャンマーの貧困地区にクリニックを寄付したり、山岳地帯に小学校を贈ったりした。また自らの出資と協会からの寄付による「あかね基金」をもとに准助産

師1000人を育成した。このような活動を通して触れたミャンマーの若者たちの勤勉、真面目、心優しさ。「日本の介護現場を体験し、そこで学んだ技能を母国で生かしてもらえれば」と、協会活動とは別に技能実習生の受け入れを支援する会社「西ヘルスサポート」(岡山市)を設立。

ヤンゴンに日本語学校をつくったりして準備を進めてきたが、コロナ禍の広がりで実習生は日本に入国できなかつた。

今年3月、ようやく入国制限が緩和され、5月から約80人の実習生が3回にわけて来日した。全員女性で、平均年齢は25歳。大学や短大卒が多い。1カ月間、介護や日本の交通、消防法規などを勉強したあと、病院や施設など15カ所へ。高齢者施設の白和荘(岡山県高梁市)、矢掛荘(岡山県高梁市)、大田記念病院(広島県福山市)、水永リハビリ病院(同)などで働いている。

技能実習生の在留期間は3年だが、介護の場合、資格を取れば延長できる。日本の介護現場は人手不足が深刻で、人材確保の競争が激しい。西山さんは今後、毎年100人を招きたい、と話す。

大口寄付が3件

この1年間、協会に3件の大口寄付があった。

岡山プラザホテルのグループ企業でつくる「永山積善会」(永山久夫代表)協会理事)が150万円、福山

通運(小丸成洋社長)協会理事)の創設者の寄付で設立の「渋谷育英会」が100万円、また三重県伊

賀市のニチニチ製菓が120万円、それぞれ寄せた。この3団体からは毎年協会へ活動資金が提供されている。

2022年度予算

費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
繰越金	12,733,322	53,960,608	前年度より繰越
会費・入会金	1,750,000	0	会費170人、入会金10人 賛助会費10人、役員運営協力金20人
寄付金	1,500,000	30,000	一般寄付金
助成金	2,500,000	0	永山積善会、渋谷育英会
雑収入	50,000	0	預金利子、協賛金等
合計	18,533,322	53,990,608	

費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
事業費計	3,250,000	10,000,000	一般会計 ミャンマー医療人の研修・研究支援に関する事業 1,000,000 公的機関と協力して支援する事業 1,000,000 家賃地代 750,000 組織活動の公表に関する事業 500,000 特別会計 田中奨学金10人、 10,000,000
人件費	0	0	
会議費	50,000	0	理事会、総会費用
旅費交通費	50,000	0	出張旅費
通信運搬費	250,000	0	電話代・インターネット使用料等
消耗品費	300,000	0	事務用品、電話機交換
水道光熱費	300,000	0	電気、ガス、水道代等
印刷費	50,000	0	総会資料印刷代
諸謝費	50,000	0	講演等謝礼
保険料	520,000	0	火災保険等
支払手数料	3,000	0	郵便振替手数料等
業務委託費	280,000	0	業務委託、会計事務委託料
地代家賃	750,000	0	賃貸契約に基づく固定資産税
雑費	100,000	0	
その他の経費計	2,703,000		
予備費	12,580,322	43,960,608	
合計	18,533,322	53,990,608	

医療機器管理人材の育成 支援継続の道を探る



1年コースの授業を視察する当時のミントウ工保健大臣(左端)。ミャンマー側の期待は大きかった=2018年8月、ヤンゴン

木股 敬裕・協会理事

(岡山大学教授II形成外科)

ミャンマー初の医療機器管理人材(メデイカルエンジニアII ME)を育成するプロジェクトはコロナ禍とクーデターにより中断せざるを得ない状況となった。この事業に関わるJICA(国際協力機構)と日本臨床工学技士会、岡山大学ミャンマー医療協力部、それに協会の熱意は変わらず、支援継続を目指して、その道を探っている。

JICA負担による総事業費5億5千万円のプロジェクトは、ME育成のための1年コースをヤンゴン医療技術大学に開設し、2018年から5年間で約100名を育てる計画。さらにミャンマー側と協議しながら23年末に医療工学士取得の4年制学部を同

大学内に創設することにし、その準備を進めていた。

18年6月からの第1期と19年6月からの第2期の医療系や工学系の大学卒業生を対象とした1年コースは、多くの応募者から工学系技師、看護師、検査技師、放射線技師を含む18名ずつが選ばれた。日本臨床工学技士会が中心となり現地に講師を派遣、講義と実習が行われ、病院での研修も実施された。私が代表を務める岡山大学ミャンマー医療協力部はミャンマー保健省とJICAなどとの連携役を担い、協会の岡田茂理事長がその調整役を務めた。

36人育成、病院へ

プロジェクトの当面の目的は、病院における適切な医療機器管理である。それにはトランプ時の対処方法の設定、医療機器のデータベース構築、適切な使用方法の啓蒙などの管理運営システム体制の確立が必要だ。1年コースの卒業生が即戦力として各病院で機能するように、病院配置後の仕事や精神面のモニタリング体制の準備も念入りに進めた。

発展途上国では通常、ME、臨床工学士(CE)の仕事は医師や看護師または設備関係のエンジニアが担っている。ミャンマーでは血液浄化(透析)は医師よりも不足している

看護師が担っていることが多く、安全性が危惧される。集中治療室の医療機器などの管理も同様だ。また医師を頂点とする社会階層が根強く、チーム医療を育むための障害にもなっている。その意味で、1年コースと将来の4年生大学の卒業生たちにとって最も重要なことは、業務範囲規定と国家資格であり、それが安全で適切な医療の提供となる。この最も重要な案件について日本側は、ミャンマー保健省と専門家による数回の協議をした。

4年生学部創設を見据えた現地教員育成のために、下関市の東亜大学が中心となり、岡山理科大学や岡山大学病院が協力し、修士号取得のための日本への留学の準備も進め、1年コース卒業生から5名の留学生を受け入れる予定だった。

19年にはミャンマー側の専門家5名に対し岡山での研修が行われた。一方、現地では同年9月には第1期生が4病院に配置され、日本の講師による直接またはメールでの定期的指導を受け、安心感と励みになっていた。

このように順調に経過したプロジェクトだったが、世界に波及し始めた新型コロナウイルスにより活動が延期や中断を余儀なくされ、現地スタッフも急遽日本に呼び戻すこととなった。第2期の1年コース生は20年4月に卒業し、病院に徐々に配置されるものの、コロナによる現地医療の混乱は卒業生の業務や精神面にも及び、そのケアに日

本からの遠隔モニタリングを積極的に実施。3期生の入学式は同年11月に行われた。プロジェクトの継続を目指し、ミャンマー保健省とのWEB協議を重ねたが、現地啓蒙セミナーと4年生大学に関わる話し合いなどは中断せざるを得なかった。

クーデターで中断

そこに21年2月、国軍によるクーデター勃発である。医療関係者のほとんどが抗議運動に参加したためにミャンマーの医療体制は崩壊の道へと向かい始めた。プロジェクトに関わるミャンマー側人材も抗議運動に参加することが多く、日本政府の方針によりミャンマー保健省などの連絡が制限され、事実上、プロジェクトは完全中断に陥った。

そんな中、JICAなど日本側の関係者はいつでもプロジェクトが再開できるように協議を定期的継続している。また、近く東亜大学での留学生を受け入れの予定だ。

「医療はどの世界においても人々にとって最も必要な支援である」。当プロジェクトに大きな尽力を頂いた故仙谷由人氏(元内閣官房長官・日本ミャンマー協会副会長)の言葉であり、ミャンマーの医療現状は振り返りに戻った感があるが、プロジェクトに関わってきた日本、ミャンマー双方の人々の医療に対する真摯な心は変わりなく、強い縁で結ばれている。これを大切にしながら、今後も支援継続の道を探ることになる。

研究に集中できます

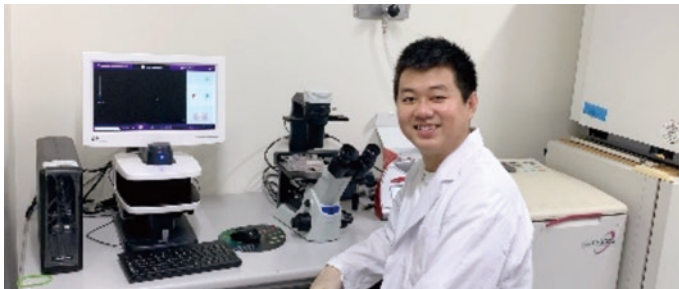
故田中茂人理事からの寄付金をもとにした協会の「田中医療奨学金」制度。その第1号奨学生になった岡山大学大学院医歯薬学域歯科薬理学のカウンタイツさんから近況などを綴った礼状が協会に届いた。

田中奨学金1号

岡山大学大学院生
カウンタイツさん

おかげで、困ったことを乗り越えることができました。日本語学校の2年間、最後まで頑張れたのは、日本の歯科医療を学びたいという夢を諦めなかったからです。

21年4月に大学院生として岡山大学に入学、歯科薬理学研究室(岡元邦彰教授)で研究を始めました。数か月間は、アルバイトをしながら、実習と研究両方をしなければならず、色々慣れないことも多く大変でした。そんなときに留学生の先輩から、協会の岡田茂先生を紹介してもらい、岡田、岡元両先生のおかげで、田中医療奨学金を頂くこと



2015年にミャンマーのヤンゴン歯科大学を卒業しました。大学の先生や先輩たちが日本へ留学したり、日本で研究や実習を行ったりするのを見聞きし、私自身も日本への進学志望が強まりました。

19年に日本へ。新聞配達をしながら、神戸の日本語学校に通いました。最初は、色々大変なことがありましたが、学校の先生と友達のと

となりました。今は生活が安定したため、アルバイトの時間を減らして、研究に集中できるようになり、協会と田中先生のご遺族に心から感謝しています。

研究室は、マウス骨髄由来の細胞が破骨細胞へと分化する実験系を確立しています。私はその実験系を使つて、いくつかの漢方薬を添加し、破骨細胞への分化が抑制されるかどうかを調べています。今、4種類の漢方薬の中から、破骨細胞への分化を抑制するものを選び、解析しています。

日本では勉強や研究の面だけではなく、様々な人間関係や文化にふれることができ、本当に良かったと思います。将来は日本で学んだ歯科薬理学の知識を生かして、ミャンマーでの歯科薬の研究と開発に、先輩や若者たちと一緒に取り組むつもりです。

編集後記

国軍の弾圧による犠牲者は2千人超、アウンサンスーチー氏側近の元議員ら4人死刑執行…。最近、ミャンマーから伝わってくるニュースは国軍の強硬姿勢が目立ち、抵抗する民主派勢力の間に、事態收拾への糸口はいっこうに見えません▼そんな中、この7月に気がかりな動きが2つ。中国の王毅外相がミャンマーを訪問し、国軍が任命した外相と経済協力について意見を交わしました。また、ミアウンブライン国軍最高司令官がロシアを訪れ、軍事分野での協力強化を話し合いました▼今、世界は重苦しい日々が続いています。ロシアのウクライナ侵攻です。日米欧は連携を強め、その一方で中口は関係を深めており、まさに「新冷戦」の様相です。ミャンマーはこのまま中口陣営に接近し続けるのでしょうか。(西崎)